



## 理工学部建築環境デザインコース 4 年生の学生が ウィーン工科大学主催の国際交流プログラムに参加

### 【概要】

理工学部建築環境デザインコース 4 年生の 8 名が、2025 年 9 月 1 日～17 日の間、ウィーン工科大学に短期留学しました。前半は、同大学地域プランニング研究室がまちづくりに取り組んでいるドローセンドルフ市を視察・調査し、後半は、日本オーストリア学術交流センター（JASEC）主催の国際学生セミナーに参加し、交流を深めました。

### 【本文】

理工学部建築環境デザインコース 4 年生の 8 名が、JASSO 海外留学支援制度（協定派遣）に採択された本学のプログラムの一環として、2025 年 9 月 1 日～17 日の間、ウィーン工科大学に短期留学しました。前半は、同大学地域プランニング研究室がまちづくりに取り組んでいるドローセンドルフ市を視察・調査し、後半は、日本オーストリア学術交流センター主催の国際学生セミナーに参加して、国際的な学術交流を行いました。

理工学部では、三島 伸雄 教授が同大学との交流を長年続けています。本年度は、建築環境デザインコースの池田 悠真さん、石丸 大貴さんら 4 年生 8 名、芸術地域デザイン学部の安田 麗子さんら大学院生 3 名と 4 年生 1 名を帯同してオーストリアに渡航しました。

9 月 1 日から 6 日は、同大学建築プランニング学部の Zech Sibylla 教授が率いる地域プランニング研究室によって、本学のためだけに特別に準備されたプログラムに参加しました。実施地であるドローセンドルフ市は、チェコとの国境付近にある城郭都市で、学生たちはそのお城に宿泊しながら、地域の強みや弱みを調査し、それを踏まえて提案を行いました。プレゼンテーション後には、提案箇所を Sibylla 教授とともに見て回り、フィードバックを受けながら場所の特性や提案実現の可能性を議論しました。その成果は、同研究室の Land Uni のホームページ（<https://landuni.at/japanische-studierende-zu-gast-auf-der-landuni/>）でも紹介されています。

9 月 8 日から 17 日は、同大学日本オーストリア学術交流センター（JASEC）が主催した国際学生セミナーに参加しました。お茶の水大学の学生も参加し、「赤時代のウィーン Red Vienna」について学びました。Red Vienna とは、ウィーンが社会民主主義になった第一次世界大戦と第二次世界大戦の戦間期のことを指し、労働者階級等のために様々なことが行われた時代です。建築的にも、労働者向け集合住宅や公共施設などが建設されました。三島教授も、同時期にヨーロッパから日本が受けた影響について講義を行いました。

これらの交流により、ウィーン工科大学との関係は、理工学部にとどまらず、芸術地域デザイン学部をも含めたものへと発展しました。今後も、国際的な学生教育のさらなる発展が期待されます。



ウィーン工科大学の取り組み紹介（ドローセンドルフ城内にて）



Zech Sibylla 教授（右）と案内人による説明



JASEC 主催の国際学生セミナーのオープニングセレモニー



三島伸雄教授の講義「Influence of Red Vienna to Japan」



Red Vienna 時代に建設された施設の見学